令和8年度　全国学力・学習状況調査
市内の児童・生徒の調査結果を公表



全国学力・学習状況調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析して、教員の指導方法の研究・改善や市教育委員会の教育施策の改善・充実につなげることを目的としています。

今年４月に、市内の全小中学校が参加した全国学力・学習状況調査の結果について、概要をお知らせします。

なお、この調査結果は、児童・生徒が身につける学力の一部であることをご承知ください。

調査対象

対象者　：　小学６年生（24 校）、中学３年生（11 校）

内　容　：　教科に関する調査
（小学生／国語・算数　中学生／国語・数学・英語）
生活習慣や学習習慣に関する調査

1　教科に関する調査

（1）小学６年生　国語

現状と課題	○平均正答率 58.3%（全国値との比較　－2.6 ポイント） ○知識・技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱いに関する事項」は全国と同水準を保っています。また「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる」問題なども全国と同水準でした。一方で、思考力・判断力・表現力等の「書くこと」「話すこと・聞くこと」に課題が見られ、特に「書くこと」において全国との差が見られます。 ○「文章全体の構成や展開を考える」「考えが伝わるように表現や書き表し方を工夫する」の２点を重点的な課題と捉えています。
今後に向けて	○自分の考えをまとめ、発表する授業場面を通して、本文の記述から引用し自らの経験をもとに説明する力を育てていきます。 ○普段の授業から、「理由を言語化し、要約や説明を行う学習過程」を積極的に取り入れた授業改善を進めます。

（2）小学６年生　算数

現状と課題	○平均正答率 52.3%（全国値との比較　－4.1 ポイント） ○立方体の体積計算や四捨五入などの基礎的な問題では全国と同等の結果となりました。 一方で、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」のすべての領域で全国を下回り、思考力・判断力・表現力の育成に課題が見られます。 ○多くの情報から必要な数量を見出し、それらを基に立式することや考え方の根拠を言語化する力に課題があります。
今後に向けて	○問題文のポイントを簡潔に説明・要約することの日常化、図や式を活用して根拠を説明する活動を積極的に取り入れます。 ○児童への丁寧な個別指導を継続しつつ、子どもたちが「解くことや考えることが楽しい」と感じられる「分かる授業」を目指します。

（3）中学３年生　国語

現状と課題	○平均正答率 65.8%（全国値との比較　＋1.9 ポイント） ○昨年度に引き続き全国値を上回る良好な結果となりました。特に「漢字の書きや語句の活用」「目的に応じた要約と解釈」で大きく全国を上回りました。 ○観点別でも「知識・技能」「思考・判断・表現」の双方で全国値を上回っています。 一方で、「必要に応じて質問しながら話を聞き、内容を正確に捉える」といった「聞くこと」に一部課題が見られました。
今後に向けて	○日頃の話し合いや対話活動において、相手の発表をどのように聞き、どのように質問へつなげるかという指導を意識的に取り入れます。 ○読み手からの助言を踏まえて自分の文章を見直すなど、生徒が主体的に関わりたくなる魅力的な授業づくりを継続します。

（４）中学３年生　数学

現状と課題	○ 平均正答率は 57.9%（全国値との比較　＋0.9 ポイント） ○ 昨年度に続いて、全国と同等以上の良好な結果となりました。 ○ 「関数」や「データの活用」で全国と同等以上の結果となったほか、「あきらめずにいろいろな方法を考えた」と回答した生徒が 81.0%（全国比+3.2 ポイント）に達するなど、粘り強い学習態度が強みとなっています。一方で、思考のプロセスや判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題（記述式）に課題が残ります。
今後に向けて	○日常の授業で、生徒の高い粘り強さを活かし、自分がどう考えたのかを言葉や図・式を使い伝え合い、思考を深める場面を設定していきます。

（５）中学３年生　英語

昨年度の理科に続きコンピューター使用型調査（CBT）で実施し、次回調査以降に学力の経年比較が可能な項目反応理論（IRT）に基づくスコアで結果を示しています。

現状と課題	○ IRT スコア 502（全国値との比較　＋３ポイント） ○ 「事実や自分の考えを整理して話す・書く」「短い文章を読み概要を捉える」などの問題で全国平均を大きく上回る良好な結果となりました。 ○ 技能全体では「読むこと・書くこと」に強みがある一方、「社会的な話題について話を聞き要点を捉える」など「聞くこと」に課題が見られます。
今後に向けて	○　英語への学習意欲の高さを支えに、「聞くこと」の指導を充実させるとともに、自分の思いや考えを理由を添えて主体的に発信できる英語力を育んでいきます。

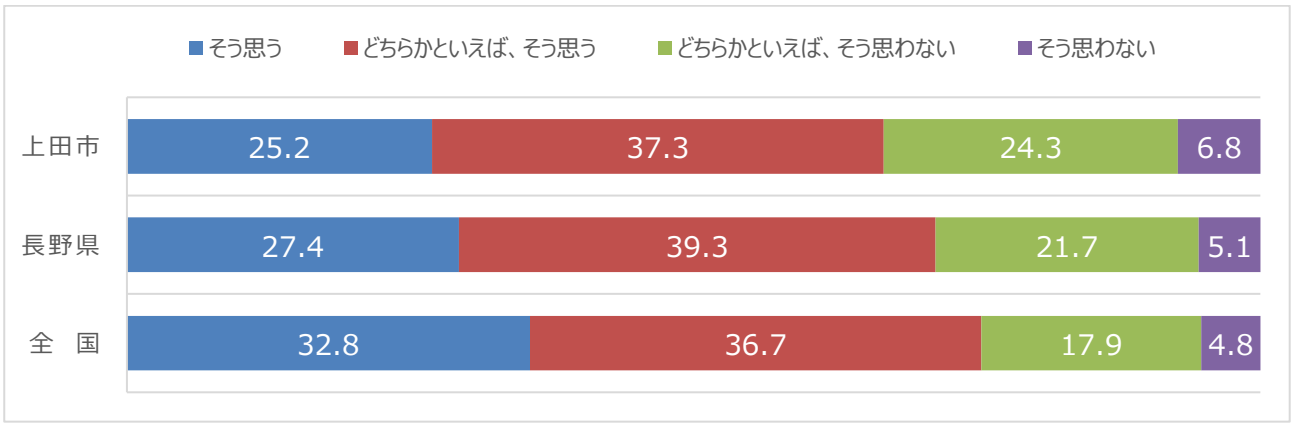
２　生活習慣や学習習慣に関する調査

小学６年生・中学３年生

◆　ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器の有効活用を目指して

現状と課題	○ 「授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理できる（思考ツールや図表の活用）」と回答した小学生の割合は 62.5%（全国比　－7.0 ポイント）となり、課題が見られます。一方で、ICT を活用して情報を整理・表現できる実感を持っている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が示されています。
今後に向けて	○ 日常的に ICT 機器を活用できるよう、授業の中で考えを交流する場面で積極的に活用したり、児童会活動・生徒会活動などで進んで活用したりしていくことが大切です。 ○ 一人一台端末などの ICT 機器は、児童・生徒の興味・関心や個に応じた追究ができる重要なツールです。学校間や教員間の活用の差を解消し、個別最適な学びと協働的な学びをさらに充実させていきたいと考えます。 ○ ICT 機器を活用することで、単なる情報収集だけでなく、情報を分析して思考力・判断力をつけたり、考えたことをアウトプットすることで表現力を高めたりしていきたいと考えます。

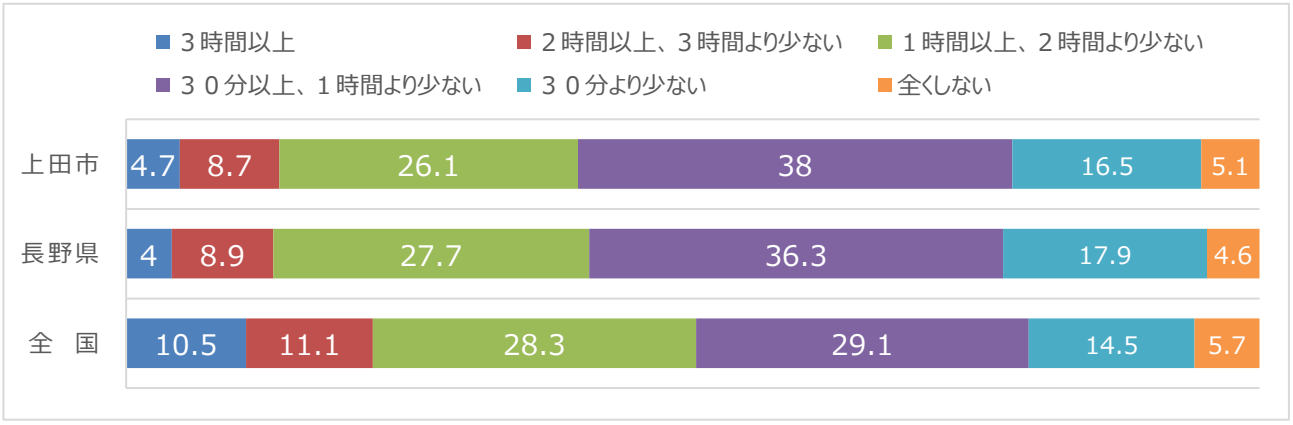
グラフ① 小学校 <PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理することができると思いますか>



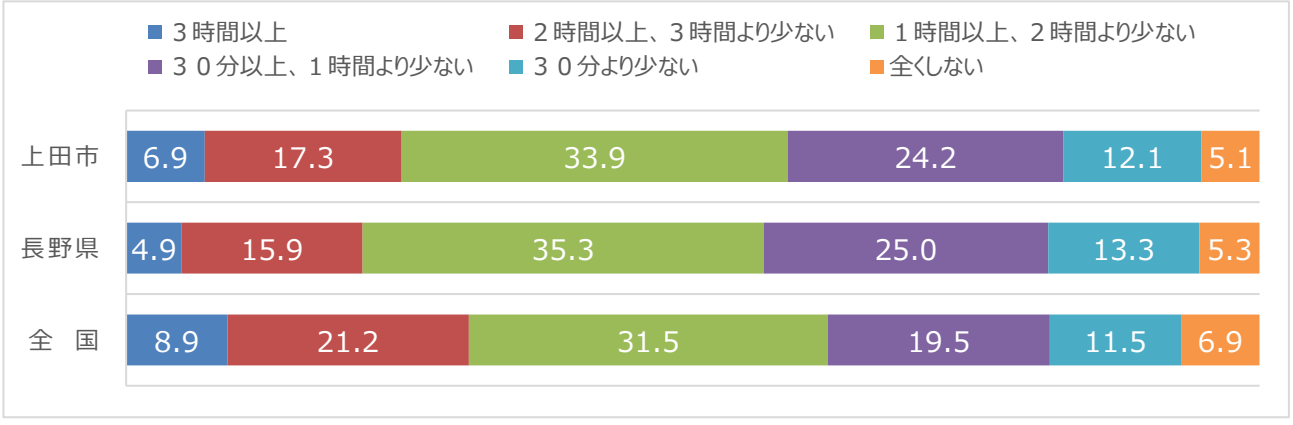
◆ 家庭学習の習慣化とメディア利用と、ICT の適正利用を目指して

現状と課題	○ 平日の家庭学習時間について、小・中学校ともに 1 時間未満の割合が増加傾向にあり（小学生 59.6%、中学生 41.4%）、学習時間の確保が課題となっています。 ○ 小学生の約半数（49.7%）が、学習やゲーム以外で SNS や動画視聴等を「1 日 2 時間以上」行っている実態があります。
今後に向けて	○ 家庭と連携し、個々の状況に応じた計画的な家庭学習習慣の確立を目指します。 ○ スマートフォンやタブレット等の望ましい利用時間や情報モラルについて、学校・家庭・地域が連携して児童生徒及び保護者への啓発を強化していきます。

グラフ② 小学校 <学校の授業時間以外に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか>

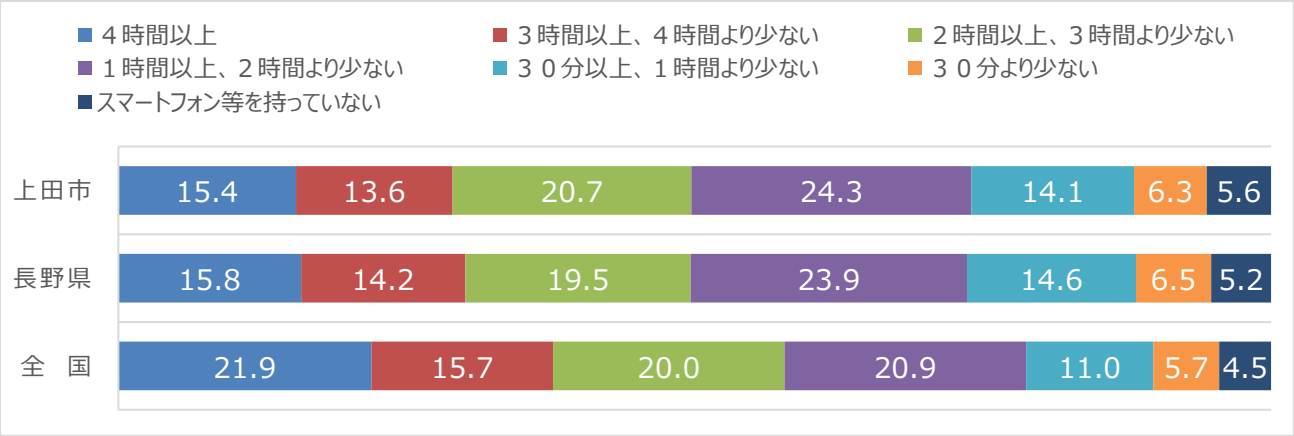


グラフ③ 中学校 <学校の授業時間以外に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか>



※グラフの合計値は 100 にならない場合があります。

グラフ④　小学校＜普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）で SNS や動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）＞



※グラフの合計値は 100 にならない場合があります。

3　変化の大きな社会を生きる力を育むために

子どもたち一人一人に確かな学力の定着とさらなる向上が図られるよう、これからも、学校では子どもの興味や関心に合わせた教材を用意したり、体験学習の機会を設けたりすることなどによって、様々な課題に主体的に取り組むことができるよう継続して「できた・わかった」を実感できる授業改善に取り組んでまいります。また、児童・生徒が、既存の発想にとらわれず、新しいアイデアを生み出す「創造性」、他者の意見を大切にする「対話力」を発揮する場面、思考・表現する「アウトプット」の場面を大切にしていきます。

上田市教育委員会では、これらの調査結果を有効に活用し、児童・生徒がよりよい生活習慣や学習習慣を身につけることができるよう、家庭・学校・地域の連携をさらに深め、教育施策を立案・実践してまいります。



